# 理事をお引き受けして

三島市　杉臣　武（幸町出身）

親の遺産相続は厄介なものである。ネコの額に足らぬ土地でも、ペイオフの脅威とは無縁の預金でも、下手をすれば親族を巻き込む騒動になりかねない。親父が亡くなった時、一番身近にいた長男の私が考えたのはそのことだった。生前親父は私が三島の住居を引き払って高田に戻るよう、半ば脅迫気味に訴えていたのだが、私には受けるわけにいかない家族の事情があった。結局すべての遺産を兄弟で等分してしまったので、昭和十年以来幸町の一角を占めていた親父の家は、隣家の駐車場になってしまった。親父申し訳ない！

家を処分したことで、高田は私の記憶の中から遠ざかって行くはずだった。ところがその後幼なじみの友に誘われ、つき合いのつもりで入ったJネットが、私の郷土意識を強烈に自覚させることになったのは我ながら驚きである。

年齢的に「故郷忘じ難く候」という時期になったのかも知れない。物的なしがらみが無くなって、反って愛着の念が強まったのかも知れない。例会でなじみになった方々と酒を酌み交わすと、雁木通りが無性に懐かしい。

それで先日「Jネットの理事に欠員が出たから君なってくれ」という電話に気安く返事をしたのだが、役員の名簿を見たらどなたも立派な経歴・肩書の方々で、経歴は言わずもがな退職後町内会の他は肩書き無縁の我が身を振り返って、身の程知らずの役を厚かましくもお受けしたものかなと後悔しきり。

厚かましいと言えば、今関係している団体で一番公共性のありそうなのが、災害ボランティアコーディネーター三島という団体で、私はそこの事務局長をしている。自分が助けて貰う側になりそうな歳でこんな役をやっているのだから厚かましさにおいて理事といい勝負。とにかくお引き受けした以上は何とか会と郷里のお役に立ちたい。Jネットの智恵とアイデアが郷里上越活性化の応援団としての役割を果たせるよう願っている。